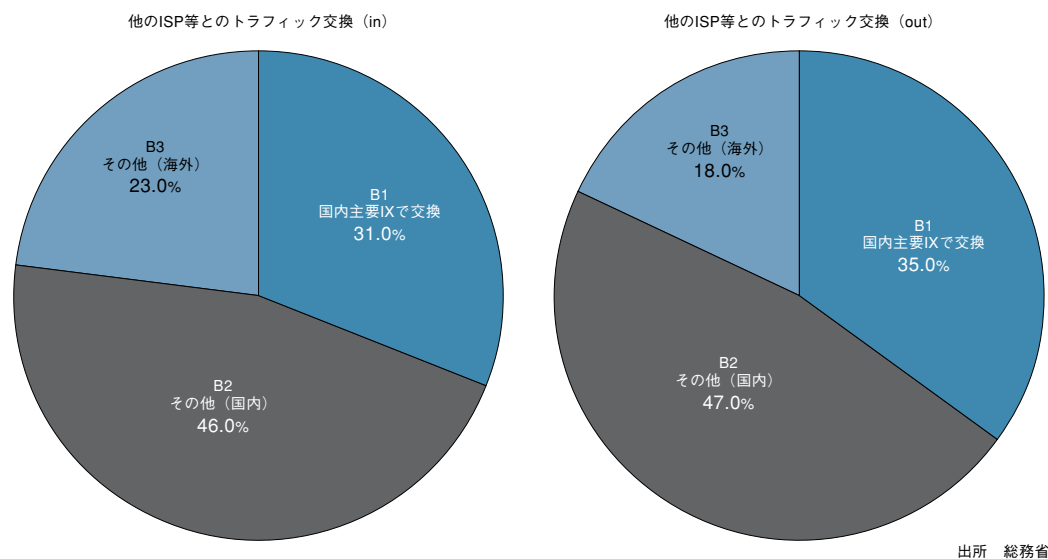


## 国内トラフィック

### 1秒当たり324Gビットの情報が行き交う国内トラフィック

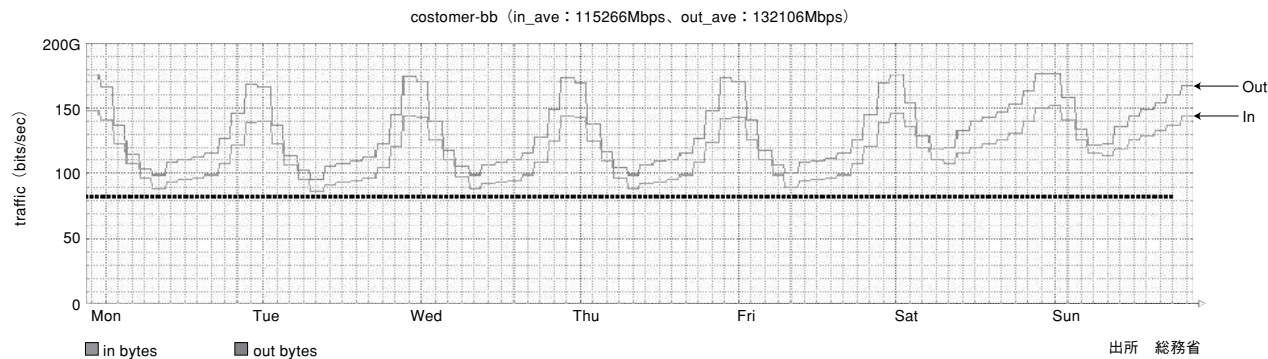
資料8-2-1 ISPどうしのトラフィック交換（2004年11月）



ISPや学術ネットワーク間の相互接続ポイントをInternet eXchange (IX) といい、日本国内ではNSPIXP、JPIXやJPNAPなどをはじめとするIXがトラフィックの交換を行っている。国内のトラフィックはすべてがIXを通過するわけではなく、「プライベートピアリング」と呼ばれるISP間で相互に交換されるものも少なくないため、トラフィック総量を把握するのは難しい。そこで総務省は、上記の国内主要IXとISP7社の協力を得て、国内トラフィックの集計・試算を行った。この試算によれば、国内における2004年11月時点のブロードバンド契約者（ADSL、FTTH）のトラフィック総量は324Gbpsとなっている。各IXのトラフィック推移を見てもわかるように、国内トラフィックはADSLが普及し始めた2001年後半から急増し始め、今なお増加の一途をたどっている。

### P2P人気で増えたブロードバンド接続ユーザーのアップロードトラフィック

資料8-2-2 ブロードバンド契約者の時間別（曜日）トラフィック推移



総務省の調査に協力したISP7社からブロードバンド契約者に送信されるトラフィック（アウト側）は、2004年11月の時点で最大180Gbps近くまで達し、最低でも約95Gbps、平均133Gbpsに及ぶ。また、ユーザーからISPへのトラフィック（イン側）も、アウト側に比べれば少ないものの、最大140Gbps、最低でも80Gbps、平均116Gbpsと相当量に及ぶことがわかった。これは、ブロードバンド接続による常時接続の普及やP2P人気などにより、一般ユーザーがデータをアップロードする機会が増え、イン側（ISPから見た）トラフィックが増加したためだろう。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)